

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.15

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

### 三陸復興推進機構マーケティング戦略班では、 野田村での起業活動を支援しています

2月10日、野田村で開催された「のだ千年の松グループ活動報告会」にて、マーケティング戦略班の班長・対馬正秋教授と田中隆充教授が、野田村の地域ブランド作りについて講演しました。

同グループは、東日本大震災の津波で失われた1万本の黒松防潮林の復活と、復興活動の将来（千年後）への伝承を目指す活動グループの総称で、震災被災者達が立ち上げた2つの団体「だらす工房（流失した黒松を用いた木工品製造）」と「くるみ工房くる美人（オニグルミ食品の商品化）」を中心としています。



講演する対馬教授

報告会では、対馬教授が「野田村のブランドづくり」に向け、こだわりをもって商品開発することの重要性やその情報発信について講演。



田中教授による講演

続いて、田中教授が「商品パッケージにおけるデザインの大切さ」をテーマに、デザインが付加する商品の機能や、地域そのものをPRすることの必要性について講演しました。そして、支援依頼を受け、本学（担当：マーケティング戦略班）も参画している「いわてデザインネットワーク・ボラ

ンティア」の活動で制作した「野田村天然シリーズ」の2商品（写真参照）のパッケージデザインを紹介しました。

報告会后、関係者からは支援への感謝と、活動に大きな自信を得られたといった声が寄せられ、起業への新たな一歩を踏み出しました。



#### いわて野田村天然シリーズ



いわてデザインネットワーク・ボランティア制作の野田村天然シリーズのデザイン

### 首都大学東京の寮生に、心のケア班の活動に関する講演を行いました

3月2日（土）に佐々木誠特任准教授が首都大学東京の学生に対して、被災地の状況や「心のケア班」の活動内容について気仙沼市民会館で講演を行いました。

講演会は、首都大学東京の学生寮「桜都寮」の寮生が自らテーマを設定し、運営まで取り組む「春合宿」のプログラムの一つとして企画したものです。

今年度の春合宿は、「東日本大震災から二年～被災地の現状を知る～」をテーマに宮城県気仙沼市を訪問。災害救助活動に取り組んだ消防署員や、復興支援活動に取り組んでいる岩手大学やNPOなどの取り組みの講演の他、現地の高校の在校生・卒業生とのディスカッションを実施しました。

臨床心理士として活動している佐々木特任准教授からは、被災地で行っている傾聴研修会、支援団体向けの学習会やコンサルテーションの活動内容について説明がなされるとともに、翌日、気仙沼高等学校の卒業生・在学生と被災地の復興についてディスカッションを行う予定の学生に対して、被災者と接する際には不意打ちをさけるなど「安心・安全」を基本とすることや相手の立場に立つことなど、具体的なアドバイスを行いました。

また、「心のケアは、専門家だけではなく様々な人の協力が不可欠である。学生はパワーを持っており、首都大学東京の学生にも今回の体験を周りにも広めてほしい」など、支援をお願いしました。

首都大学東京の学生にとって、マスコミ報道とは違った形で、被災地で活動を行っている大学の生の声を聞く貴重な講演会となりました。

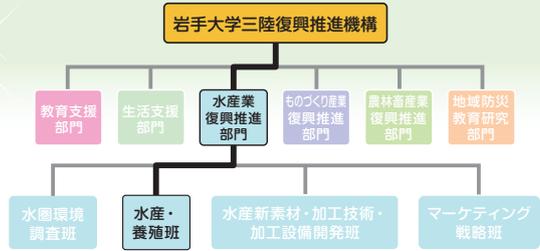
岩手大学では、震災から2年が経過した今だからこそ、東北地方以外の方々にも被災地の復興について関心を持っていただけるように、取り組んでいきたいと思っています。



首都大学東京の学生に講演する佐々木誠特任准教授

# 岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、岩手県山田町と大槌町にて、産学連携でホヤ養殖の再生に取り組む水産・養殖班の活動の一例をご紹介します。



## 三陸地場天然ホヤの人口採苗生産試験

岩手大学三陸復興推進機構 水産業復興推進部門 水産・養殖班  
梶原 昌五 (教育学部 准教授)

水産業復興推進部門の水産・養殖班では、研究の中心をサケ類の遺伝学的研究に置きつつ、カキ、ホヤ、アカモク等の養殖試験も行っています。今回は、冬に産卵するホヤの採卵試験および採苗試験について紹介します。

ホヤ類は世界中に約2300種いますが、三陸および陸奥湾に生息するマホヤは大型のホヤで食用に適しており、北海道南部でも養殖されています。また、韓国でも養殖されていますが、病気の蔓延等で、最近では日本から大量に輸入しています。

震災前は、この需要に応えるために岩手県でもホヤの養殖と輸出が盛んでしたが、養殖を始めるのに必要な種ホヤ(生後1年未満のホヤ)を宮城県の天然物に頼っていたために種ホヤが足りなくなり、県水産技術センターの方々が梶原研究室に相談にいらしたことから人工種苗生産の研究が始まりました。



大浦ホヤ業者

その研究がまとまり、希望する漁協への説明会も行われ、平成23年春には初出荷の予定でしたが、3月11日の東日本大震災大津波で養殖施設はすべて流失し、養殖業者の数も激減し、基幹産業である漁業全体が壊滅状態になってしまいました。

そこで、次世代に続く多角的な養殖業を目指し、県振興局水産部や水産技術センターとともに、岩手大学もホヤの人工種苗生産試験に参加させていただくことになりました。

試験は3つに分かれます。まず天然のホヤの産卵時期を調べる生殖巣の成熟度調査。次に、産卵時期のホヤから効率的に多くの卵を得るための採卵試験。そして、泳ぎ出した幼生を養殖用ロープに付着させる付着試験です。共同研究は山田町の大浦地区および大槌町の吉里吉里地区で行われ、現在は沖出したロープへのホヤの付着状態がわかる6月を待っているところです。

この試験で最も困難だったのは、漁協施設の未整備でした。復興どころか復旧、さらに片付けすら終わっていない漁協が大半です。次年度はもっと管理された施設で養殖試験が行われるよう祈ってやみません。



大浦ホヤ採卵

## 釜石サテライトだより

### ●釜石市東日本大震災犠牲者追悼式

3月11日、あの日、あの時から2年が経ちました。

この日、政府主催の東日本大震災二周年追悼式が東京の国立劇場で行われましたが、岩手県の被災市町村でも同様の行事が行われ、岩手大学からも慰霊のため理事等が手分けして参加しました。

釜石市でも、同日午後2時30分から岩手県立釜石高等学校第1体育館で、釜石市東日本大震災犠牲者追悼式が開催されました。政府主催の追悼式が生中継でスクリーンに放映され、内閣総理大臣式辞、天皇陛下のおことばを拝聴することができました。放映後、釜石市長や岩手県知事、釜石市議長、遺族代表者から犠牲者に対する哀悼の言葉が捧げられ、引き続き参加者から献花が行われました。

犠牲になられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。



### ●釜石サテライトの移転のお知らせ

岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライトは、下記のとおり釜石市平田地区の新施設内に移転いたしました。電話番号も変わりましたので、よろしくお願いいたします。

- 新施設には釜石サテライトのほか、岩手大学三陸水産研究センター(4月1日設置予定)が入居します。
- 「釜石サテライトこころの相談ルーム」を開設し、三陸復興推進機構心のケア班(臨床心理士)による被災者・支援者のカウンセリングやコンサルテーションを行います。



釜石サテライトの新しい建物



新しい事務所での初作業

### ■ 移転先

〒026-0001 釜石市平田第三地割75-1  
岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト  
TEL: (0193) 55-5691 (代表)  
FAX: (0193) 36-1610  
E-mail: kamaishi@iwate-u.ac.jp  
URL: <http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/>



## Information

### 東日本大震災で被災した志願者・在学生への平成25年度における経済的支援について

岩手大学では東日本大震災で被災した志願者並びに在学生の方に対して、平成23年度、24年度に引き続き、平成25年度も次のとおり学納金等の減免措置を講じます。  
※被災=家屋の損壊、主たる家計支持者の死亡、家計逼迫、原発被害など

#### 入学試験

被災の程度により入学検定料を免除します

#### 入学

対象者の入学料を減免します  
被災の程度と家計状況に応じて、全学免除又は半額免除又は半額1/4額免除とします

#### 在学中

授業料減免  
被災の程度と家計状況に応じて、年間の授業料を全額免除又は半額1/4額免除とします。

学生寮 寄宿料免除  
入学料が全額免除となった方の寄宿料を半年間全額免除とします。

奨学金  
本学及び民間財団等による奨学金の給付制度があります。  
※返済不要

#### 卒業

お問合せ先  
●検定料について  
●入学料・授業料・奨学金について  
●学生寮について

入試課 TEL:019-621-6064  
学生支援課奨学グループ TEL:019-621-6882  
学生支援課学生支援グループ TEL:019-621-6060

減免の基準や申請方法等、詳細については、下記URLにてご確認ください。岩手大学ホームページ：  
[http://www.iwate-u.ac.jp/attention/keizaisaien\\_2012.shtml](http://www.iwate-u.ac.jp/attention/keizaisaien_2012.shtml)

### 編集後記

3月中下旬を過ぎた頃から気温が10℃に近づくと日も多くなり、キャンパスには大きな花をつけた福寿草の群生が見られるようになりました。

3月22日には卒業式が挙行され、1,135名の学部生と333名の大学院生が岩手大学を卒業・修了しました。震災が発生した2年前は、卒業式も入学式も開催することができなかった寂しさと思うと、毎年の行事を予定どおりに開催できることのありがたさを感じずにはいられませんでした。